

全国模擬授業大会で考える

- 教育改革の第一歩は、授業を大切にすることから -

開倫塾

塾長 林 明夫

1. はじめに

おはようございます。開倫塾塾長の林明夫です。今朝も「開倫塾の時間」をお聴きいただきありがとうございます。

先日の6月12日、火曜日に、開倫塾の付属機関である開倫研究所が主催して「全国模擬授業大会」を開催しました。模擬授業とは、学校や学習塾、予備校の先生方がやられることが多いのですが、自分が実際に児童や生徒、学生に対して授業をする前に、練習として授業を試みることを言います。児童や生徒、学生はいないのですが、他の先生の前で、あるいは自分一人で自分の教える腕を鍛えるためにその日の授業をやってみる。これを模擬授業と言います。模擬試験というものがありますが、これも本当の試験ではなく、それに備えて行う試験のことですね。予行演習という点では似ていますね。

本日の「開倫塾の時間」では、この全国模擬授業大会についてお話いたします。

2. 全国模擬授業大会で考える - 教育改革の第一歩は、授業を大切にすることから -

(1) 模擬授業の全国大会を、開倫塾の付属機関である開倫研究所主催で6月12日火曜日の午前11時から午後2時までの3時間、足利市生涯学習センター、元の相生小学校の4つの教室をお借りして開催させていただきました。全部で25名の先生方が模擬授業を行いました。学校や学習塾、教育委員会を含めて約170名の先生方が栃木県をはじめ全国から参加なさって、模擬授業を見学しました。

(2) 模擬授業大会のやり方ですが、各先生方に、その日の授業の初めのところを15分間だけ教えていただけるようお願いしました。模擬授業大会では、導入部、つまりどの教科においても授業をはじめるとあって、「今日の授業ではこのようなことについて勉強するんだよ。これはやさしく言うとこのようなことだよ。」ということの説明していただきました。

(3) 例えば、社会の公民の授業であれば、「日本国憲法の3大原理とは、国民主権と基本的人権の尊重と平和主義である」ということを習います。その授業では教え手である先生が、日本国憲法とはどのようなものか、国民主権とは何か、基本的人権の尊重とは何か、平和主義とは何かとい

うことをわかりやすく説明して、学習者である児童・生徒・学生に「うんなるほど」とよく「理解」してもらい、わかってもらうために、そのことを授業の最初の部分でお話することが多いと思います。

そのような導入部分について、この模擬授業大会では 15 分間で自分の腕を競って下さいとお願いしたところ、それに対して 25 名の先生方が真剣に取り組んで下さいました。それを 170 名ほどの参加者が見て、「あの先生はこのような工夫をしている」「あの先生はこのようなことに注意をしながら、児童・生徒・学生に教えている」ということを知り、自分の明日からの授業の参考にさせていただく。これが、この全国模擬授業大会の意図、開催趣旨です。

(4)この大会を通じて一番力がつくのは、もちろん実際に授業をした先生です。全国大会ですので、2 か月くらい前から毎日毎日自分一人で考えたり、あるいは、いろいろな先生方に見ていただいて適切なアドバイスや指導を受けて工夫をし直したりしていたそうです。前日には午前も午後もずっと練習をして、一睡もしないで模擬授業大会に参加して下さった熱心な先生もいらっしゃったそうです。

実際に授業を行った先生が一番力がつき、それを見ていた方々は工夫の仕方に感心したり、改善点を見つけて反省したりと、お互いに刺激を受け合ってよい 1 日が過ごせたと、あとからお聞きしました。改めて、このような大会を開催してよかったなと思っております。

(5)この大会は、栃木県経済同友会のお世話で、栃木県の「県民の日」の協賛事業としてさせていただきましたので、この大会に参加して下さった先生方には、栃木県の教育レベルを少しでも向上させることを目指していただきました。皆様のお力で、いくらかでも栃木県の教育レベルの向上に役立ったのではないかと思います。

(6)私は審査委員をさせていただき感じたことは、一番大切なことは子どものことをよく考えて、子どもの状況に合わせて授業を設計する、デザインすることだと思いました。「レスンプラン」という言葉があります。これは、1 回 1 回のレッスン(授業)についてプラン(計画)を立てて、その授業をデザイン(設計)するということです。

昔の「教案(きょうあん)」のことを、今では「レスンプラン」と言うことが多いようです。その「レスンプラン」を児童や生徒、学生の実状に合わせて毎日、毎日書き直す。「このような児童や生徒、学生がいるのであるから、このように教えなければ」と 1 回 1 回の授業を形づくっていく。そして、授業中の児童や生徒、学生の発言、疑問、授業態度などをできるだけ「レスンプラン」の中に書き込んでいき、一人ひとりの立場・状況を十分にふまえて、一所懸命に児童や生徒、学生のために教えていく。

1 日が終わったら、英語では reflection(リフレクション)と言いますが、その日の授業を振り返って反省、省察する。そして、次の授業に備える。このような形で「レスンプラン」を最大に活用することが、素晴らしい先生になるための秘訣の 1 つです。

(7)今回、全国模擬授業大会を開催させていただきましたが、参加された先生方もその日の授業を振り返ってリフレクションをし、もっともっとよい授業になるように励んで下さると思います。また、このようなことをやっている先生方が全国にはたくさんいらっしゃいます。

3. おわりに

教育改革の第1歩は、先生方の教え方の向上です。これにはお金が全くかかりません。先生方が立ち上がって自分の授業をよくしようと思えば、素晴らしい授業をいくらでも展開することができます。すると、栃木県中の学校、学習塾、予備校などの教育機関がよくなります。さらに、それを日本中で行えば素晴らしい国になります。学校をはじめとするあらゆる教育機関は、例えば「レスンプラン」や模擬授業などを通して、一人ひとりの先生方が教え方を工夫する授業を大事にすることを心掛けていただきたいと思います。

今日は、全国模擬授業大会を6月12日に足利市で開催いたしましたので、その報告をさせていただきました。

——「児童」「生徒」「学生」という呼び方について——

小学校で学ぶ人を「児童」、中学・高校で学ぶ人を「生徒」、大学・短期大学・専門学校などの高等教育機関で学ぶ人を「学生」と呼ぶことが多いので、私もそのような意味で使っています。

- 2008年9月17日加筆 -